

令和6年度 広見中学校 後期 学校評価

基本方針	本校教育の歴史と伝統を継承し、地域と共に創意と活力ある学校づくりに努め、夢や目標を持ち、ふるさと「鬼北」に貢献することのできる、心豊かでたくましく生きる生徒を育てる。		
学校教育目標	郷土に誇りを持ち、たくましく生き抜く生徒の育成	若さあれ 力あれ 友情あれ	
目指す生徒像	若さあふれる生徒 学ぶ力のある生徒 心の美しい生徒	目指す教師像 元気で若々しい教師 指導力のある教師 仲間と支え合う教師	元気な学校 感じのよい学校 「ゲンカンが美しい学校」 美しい学校
本年度の重点	1 確かな学力を育てる教育の推進 2 生徒の健全育成 3 生き方に学ぶ「地域コミュニケーション科」の推進		

評価の方法・・・全項目(太枠内)について、下の4段階で評価する。ただし、自分が関わっていない項目や分からない(評価できない)項目は\を記入する。  
評価の観点の良い方から、4-3-2-1の4段階評価で記入する。

重点	評価指標	評価の観点	評価	前期 ◇反省・◆提言	対象	時期	4	3	2	1	肯定割合	平均	
1 「確かな学力」を育てる教育の推進	1 主体的に学ぶ授業づくり (取組指標) (100%、90%以上、80%以上、80%未満)	① 生徒が自己評価できる目当てを示した授業の割合	B ↓ B	◇ 全体の肯定率が前期より0.7%低下した。この要因として、「自己評価できる目当てを示した授業」において教師の実践は評価されているが、生徒が主体的に目当てを活用する力を十分に育てていない可能性がある。また、朝学習への取組は高評価を得ているものの、約11%の生徒が真剣さや定着に課題があると答えている。保護者の評価でも一定の否定率が見られ、授業の分かりやすさや学力向上の取組について更なる改善が必要と考えられる。 ◆ 生徒が自己評価をより効果的に行うことができるよう、目当ての提示だけでなく、それを具体的に活用する指導法を強化する。朝学習では、生徒全員が真剣に取り組むよう、個別支援を充実させるとともに、成果を共有する場を設け、モチベーションを高めるよう工夫する。また、保護者に対しても、学力向上に向けた具体的な授業改善策を提示し、家庭での学習と連携を深める取組を推進していく。	教職員	前期	82.4	17.6	0	0	100	93.8%	
		後期				77.8	22.2	0	0	100			
	2 基礎・基本の徹底と学習習慣の確立 (取組指標) (90%以上、70%以上、50%以上、50%未満)	② 学習態度評価80点以上の授業日	朝学習に真剣に取り組み、内容が定着している。	B ↓ B	◇ 前期と比較して、生徒や保護者の肯定割合が低下していることから、基礎・基本の定着を図ることが急務である。 ◆ 教職員は、生徒の理解度を高める授業について、各教科で研修を重ねるとともに、各学級で家庭学習の充実を呼び掛ける必要がある。また、保護者と連携しながら、自主学習などの家庭学習の充実を図ることも有効であると考えられる。	教職員	前期	76.5	23.5	0	0	100	86.3%
			後期				76.5	23.5	0	0	100		
	3 コミュニケーション力を伸ばす教育活動 (取組指標) (90%以上、70%以上、50%以上、50%未満)	③ 書く・話すことや表現することを取り入れた授業の割合	学習内容をほぼ理解している。	B ↓ B	◇ 生徒の肯定率は前期と比べて約6%アップしている。しかし、1の評価をした生徒もわずかに増えている。自分の意見を伝えることが苦手な生徒へのフォローが必要であるとする。 ◆ 全体的な発表に加えて、ディスカッションやグループワークなど、生徒が主体的に話すことができる機会を増やしていく。そして、生徒同士や先生からの肯定的なフィードバックを積極的に行い、生徒が自分の意見を伝えることに自信を持てるようにする必要がある。	教職員	前期	43.8	50	6.3	0	93.8	81.4%
後期			38.9				55.6	5.6	0	94.5			
4 3年間を見通した進路保障 (取組指標) (90%以上、70%以上、50%以上、50%未満)	④ 自主学習ノートの提出	みんなの前で、自分の考えを詳しく説明できている。	B ↓ B	◇ 教職員の評価と生徒・保護者の評価に乖離が見られる。教職員の肯定率100%に対して、生徒や保護者の肯定率は、前回よりも下がっている。家庭学習の必要性や取り組み方の認識に違いがある可能性がある。また、家庭学習環境の整備不足やサポート体制の不足も考えられる。 ◆ 家庭学習の重要性について再度学級や通信等を通じて共有したり、生徒の取り組みやすい課題やスケジュール例を提示し、学習を無理なく継続できるサポートをしたりする。また、保護者向けに家庭学習を支える方法を提案し、学校と家庭が協力して取り組める体制を作る。教職員は、定期的に学習習慣の状況を確認し、課題がある場合は、改善策と一緒に考える。	教職員	前期	73.3	26.7	0	0	100	78.8%	
		後期				50	50	0	0	100			
5 ICT機器の効果的な活用 (取組指標) (90%以上、70%以上、50%以上、50%未満)	⑤ 個人端末やスマホ等のICT機器を家庭学習に役立てている。	ほぼ毎日1時間30分程度の家庭学習の習慣が身に付いている。	B ↓ B	◇ 教職員の肯定率が88.9%に対し、保護者の肯定率が54.2%と前期からほとんど変化がない。端末の持ち帰りが始まって以降も、ICTの活用状況については保護者からは見えないところが多いのではないかとと思われる。 ◆ 引き続き授業でのICTの活用を力を入れながら、ティーチャーズウィークを活用して、他の教職員がどのような方法でICTを授業に取り入れているのかを知る機会を作る必要があると思われる。また、家庭学習でのICT活用ができるように、教職員のスキルアップに向けた研修も随時行っていく。	教職員	前期	47.1	41.2	5.9	5.9	88.3	72.9%	
		後期				50	38.9	11.1	0	88.9			
考察・改善	【学校運営協議会委員より】 ○改善に向けて ・ 教職員と生徒・保護者の評価に差異がある。特に、コミュニケーション力を伸ばす教育活動の肯定率に差を感じる。人の前で自分の意見を発表することや先頭に立って積極的に行動することを苦手とする生徒が多い。日々の活動でグループワーク等を多く取り入れて能力の向上に期待したい。 ・ 教職員は生徒一人一人の学習理解度について一層の目配りをしていくとともに、学習することの意義や目的を再確認して、保護者とともに学習を習慣付ける努力をしてほしい。 ・ 学力を高めるためのICT活用であることを念頭に置き、紙ベースでの学習の良さも失わないように、ICTを適度に活用するのがよい。 ○ 子供の学力を高めるためには、学校と家庭が両輪となって、子供に指導・支援していく必要がある。また、子供自身も自分の学習の仕方や学習の定着度をしっかりと分析する習慣を付けていかなければならない。 ○ ICTの活用がまだ不十分である。個人端末の持ち帰りを進め、家庭学習が子供にとって効率的に進められるとともに、家庭学習の習慣化を図っていきたい。	前期		後期		【学校運営協議会委員より】 ○改善に向けて ・ 基礎・基本の徹底に関しては、校内外で成果のあった事例の中から取り入れることが可能なものを選択して、取り入れることができるのではないかと。 ・ 不易なものや流行との調和を大切にすべきである。DXの進化に伴い、授業スタイルも日々変化していくことが予想されるが、変えるべきではないこともある。その中で、聞く態度を徹底することは要だと考える。 ・ ICTによる学習効果への理解を保護者へ啓蒙するとともに、家庭内での効果的なICT機器利用を保護者と教職員がともに生徒へ指導し続けることで効果的な利活用が期待できるのではないかと考える。 ・ 教職員の分析のとおり、学校側と生徒・保護者の評価に大きな差がみられる点については、受け手である生徒・保護者の評価に重きを置いて、今後の取り組みを改善・工夫していく必要がある。 ○ 基礎・基本の定着を施し、「確かな学力」を身に付けさせることは、本校にとって大きな課題の1つであった。授業で楽しく意欲的に取り組んでいる様子が見られる一方で、学習意欲に乏しく十分な家庭学習の習慣が身に付いていない生徒もいるのが現状である。学習に対する生徒や保護者の満足高まるように、基礎・基本の定着に向けて授業を見直していくとともに、家庭学習の内容や取り組み方について学級担任と生徒、保護者が相談し合える関係づくりに努めたい。							

重点	評価の観点	評価	前期 ◇反省・◆提言					対象	時期	4	3	2	1	肯定割合	平均
			後期												
2 生徒の健全育成	6 いじめを許さない、いじめに負けない仲間づくり (取組指標) (100%、80%以上、60%以上、60%未満)	⑥ いじめにつながるようなトラブルもなく、安心して学校生活を送ることができる。  いじめにつながるようなトラブルもなく、楽しい学校生活を送っている。	B ↓ B	◇いじめにつながるトラブルがなく、安心して学校生活を送ることができると答えた教職員と保護者の割合が前期を下回った。大多数の生徒が安心して学校生活を送ることができている一方で、そうでない生徒がいることは事実である。人間関係によるトラブルについては、早期発見・早期対応を組織的にやっているところである。また、保護者は、4の割合が50%を下回った。 ◆アンケート等を活用しながら、教師が日頃から生徒の様子を観察したり、コミュニケーションをとったりする中で、早期発見、早期対応をしていくことが重要である。保護者とも密に連絡を取り、安心して学校に預けてもらえるように連携を深めたい。	教職員	前期	72.2	22.2	5.6	0	94.4	91.7%			
					教職員	後期	50	40	10	0	90				
					生徒	前期	71.5	19.6	7	1.9	91.1				
	生徒	後期	72.8	21.9	4.6	0.7	94.7								
	保護者	前期	52.4	41	4.8	1.9	93.4								
	保護者	後期	47.9	38.5	10.4	3.1	86.4								
	7 人としての生き方を考える道徳教育や特別活動の充実 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	⑦ ボランティア活動(アルミ缶回収、朝のあいさつ運動、つぼみの会等)への参加の呼び掛け  アルミ缶回収や朝のあいさつ運動、つぼみの会等のボランティア活動に積極的に参加できている。	C ↓ C	◇交通安全ボランティアやミニボランティア等の活動を取り入れることで、積極的にボランティア活動に参加している生徒の割合が前期の割合を上回った。ただ、肯定率は依然50%程度であり、意欲的に活動している生徒と、消極的な生徒との二極化が見られている。 ◆新たな活動を取り入れることで、少しずつ改善が見られている。今後は意欲的に参加している生徒たちと一緒にボランティア活動を促す呼び掛けをしていく必要がある。	教職員	前期	22.2	61.1	16.7	0	83.3	63.6%			
					教職員	後期	15	55	30	0	70				
	生徒	前期	23.4	24.7	36.1	15.8	48.1								
	生徒	後期	14.6	38.4	32.5	14.6	53								
8 共生の心を育てる特別支援教育と人権教育 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	⑧ 人権や共生を意識した指導への取組  福祉体験活動などで、共に生きることの大切さを感じることができている。  個性を尊重し、一人一人を大切にしたい指導に努めている。	A ↓ A	◇前期と比べて、肯定率が低下している。人権教育強調期間では、授業だけでなく人権劇や講演会を通して人権について学習し、生徒の感想でも、人権について自分ごとのように考えている内容があった。しかし、生徒の中には、共生の大切さを感じることができなかった生徒が数名いる。また、保護者の中には、一人一人を大切にしたい指導に満足していない保護者が数名いる。 ◆個に応じた対応を心掛けることが大切である。生徒の思いは理解しつつも、臨機応変に対応し、厳しくも温かい指導を心掛けたい。また、地域コミュニケーション科の学習とも絡めながら、体験活動等を通して、共生の心を更に伸ばしていきたい。	教職員	前期	33.3	66.7	0	0	100	93.7%				
				教職員	後期	45	50	5	0	95					
				生徒	前期	63.9	30.4	4.4	1.3	94.3					
生徒	後期	65.6	29.1	3.3	2	94.7									
保護者	前期	31.4	59	9.5	0	90.4									
保護者	後期	31.3	56.3	11.5	1	87.6									
9 命を守る教育の充実 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	⑨ 自分の命を自分で守る力を育てるための指導  安全面に気を付けながら学校生活を送ることができている。  安全面に配慮した活動を行っている。	A ↓ A	◇教職員・生徒・保護者ともに、肯定率が90%を上回っている。ただ、保護者の肯定率は低下しているため、自他の命を守るために、どのように判断し、行動すればよいか考えさせる必要がある。 ◆教職員が、学校のきまりや交通ルールを守ることの指導をきちんと行うように意識して取り組んでいきたい。また、生徒自身が自分の命を守る行動が取れるように、教職員が継続して指導していきたい。	教職員	前期	38.9	55.6	5.6	0	94.5	96.0%				
				教職員	後期	60	35	5	0	95					
				生徒	前期	79.7	17.7	1.3	1.3	97.4					
生徒	後期	80.8	19.2	0	0	100									
保護者	前期	37.1	59	2.9	1	96.1									
保護者	後期	36.5	56.3	11.5	1	92.8									
10 健全な食生活の充実 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	⑩ 食に関する正しい知識・望ましい食習慣を身に付ける指導  毎日、朝食をとることができている。  好き嫌いなくバランスの良い食事をとることができている。	A ↓ A	◇ほとんどの生徒が朝食をとることができている一方で、朝食を食べていない生徒が数名いる。また、保護者の回答では約20%の生徒がバランスの良い食事が取れていないことがわかった。 ◆栄養教諭と連携を取りながら、朝食をとることやバランスの良い食事のメリットを生徒たちに伝えていくことを意識していきたい。	教職員	前期	35.3	64.7	0	0	100	89.0%				
				教職員	後期	30	65	5	0	95					
				生徒	前期	73.4	13.9	10.8	1.9	87.3					
生徒	後期	70.9	15.9	11.3	2	86.8									
保護者	前期	36.2	48.6	14.3	1	84.8									
保護者	後期	32.3	47.9	19.8	0	80.2									
考察・改善	前期			後期											
	【学校運営協議会委員より】○改善に向けて ・いじめについては、少しでも低い評価があるということは、注意・改善の余地があると捉え、慎重な取組を継続してほしい。 ・安心して学校生活を送れている生徒が9割以上と良い結果になっているので、引き続き学校と家庭が連携した取組をお願いしたい。 ・ボランティア活動について生徒の評価が低いのは、日常のちょっとした活動がボランティアになっていることに気付いていないのではないかと。 ・広見中の生徒の挨拶はとにかくすばらしい。横断歩道等で停車した車への礼節も学生の模範となるものである。 ○本校生徒は概ね規範意識を持って生活できており、地域での挨拶や交通ルール遵守を心がけることができているようである。しかし、中には危険個所での遊びを繰り返す生徒もおり、命を守る教育を継続して行っていく必要がある。 ○いじめについては早期発見を心掛け、毎月の「学校をよりよくするアンケート」や教育相談、チャンス相談等を通して、誰一人残さず充実した生活を送れるよう取り組んでいきたい。 ○ボランティア活動については、生徒会を中心として自主的・自発的な活動になるように、また、生徒にとって達成感・満足感を味わえる活動になるよう工夫していかなければならない。			【学校運営協議会委員より】○改善に向けて ・全教育活動を通じた継続的な教育により、「道徳心」を根付かせる地道な取り組みやボランティア活動による社会参加の意識醸成に期待している。 ・ボランティア活動として、朝の挨拶運動に週1回はPTAとして参加し、笑顔で声掛けをし、自主的・自発的な行動を促していきたい。命を守る教育や人権問題、いじめ問題はよい結果が出ているが、「ゼロ」数値ではないので気を付けて見ていきたい。 ・概ね良好な結果が得られているが、道徳教育や特別活動について、多少評価が低いのが気になる。「思いやりの心」「ボランティア精神」について、今後も継続的な指導をしていく必要がある。 ・生徒は挨拶運動や国道沿いの交通安全呼びかけ運動などの各種ボランティア活動に積極的に取り組んでいると思う。空き缶回収やごみ拾いなども立派なボランティア活動なので、もう少し自己肯定意識を高めてほしいと思う。 ○生徒会を中心として、朝の挨拶運動や国道沿いの交通安全呼びかけボランティアを実施し、活動機会が前期に比べて多くなった分、生徒の評価割合が多少高まった。しかし、前期からの上昇割合は5ポイント程度であり、教職員に至っては低下しているのが現状である。生徒、教職員ともに活動への意識が二極化していることや日々の生活の中での自己肯定感の低さに原因があるのではないかと考える。日常の活動の中で、仲間とともに楽しみながら、人のため、社会のために働き掛けのできる学校づくりに努めていきたい。											

重点	評価指標	評価の観点	評価	前期 ◇反省・◆提言							平均	
				対象	時期	4	3	2	1	肯定割合		
3 生き方に学ぶ「地域コミュニケーション科」の推進	11 ふるさと「鬼北」を愛しむ活動への参加 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	⑪ ふるさと「鬼北」の良さを感じる活動(地域行事、地域貢献活動等)への参加の呼び掛け 地域での体験活動や地域の行事等に積極的に参加することができる。 地域での体験活動を積極的に取り入れ、地域行事への参加も奨励している。	A ↓ A	◇地域コミュニケーション科の授業で、企業と連携して鬼北町のパンフレット作成をしたり、青年団の方々と交流を行う「くるまぎょミーティング」や「福祉体験学習」の体験を行うことができた。また、でちこんかや地域の運動会などの地域行事に参加した生徒も多い。これらの活動を通して、生徒たちはふるさと「鬼北」のよさを感じることができたのではないかと考える。生徒の肯定的意見が減少した要因として部活動の大会等で行事に参加できなかったことがあげられると推測する。 ◆生徒たちは、地域の方々に温かく見守られながら生活している。そのため、生徒は地域とのつながりが深く、自分が住む町に誇りを感じている。そうした感謝の気持ちを更に高め、今後も地域行事に積極的に参加したり、広見中学校が地域に貢献できる活動を行ったりしていくことで、ふるさと「鬼北」を愛し、大切にしている生徒が増えていくと考える。	教職員	前期	33.3	66.7	0	0	100	90.3%
					後期	55	40	5	0	95		
					生徒	前期	37.3	42.4	17.1	3.2	79.7	
	後期	39.1	39.1	19.2	2.6	78.2						
	保護者	前期	41	55.2	3.8	0	96.2					
後期	37.5	55.2	7.3	0	92.7							
12 自己指導力の育成 (取組指標) (90%以上、80%以上、70%以上、70%未満)	⑫ 挨拶の習慣や節度あるスマホ・ゲーム機の使用など、基本的な生活習慣が身に付いている。 気持ちの良い挨拶や節度あるスマホ・ゲーム機の使用など、基本的な生活習慣が身に付いている。 気持ちの良い挨拶や節度あるスマホ・ゲーム機の使用など、基本的な生活習慣が身に付けられている。	C ↓ C	◇教職員・生徒の意見では前期より肯定的な意見が上がっているが、保護者の意見では肯定的な意見が下がっている。このことから、スマホ・ゲーム機の使用時間やルールについては課題があることが伺える。 ◆挨拶については気持ちのよい挨拶ができている生徒が多い。スマホ・ゲーム等の使用時間やルールについては、保護者と連携を取り、今後も機を見て話をし、適切な利用について啓発していく必要がある。	教職員	前期	27.8	38.9	33.3	0	66.7	77.0%	
				後期	15	65	20	0	80			
				生徒	前期	44.9	41.8	11.4	1.9	86.7		
	後期	47	43	7.9	2	90						
	保護者	前期	21.9	48.6	24.8	4.8	70.5					
	後期	18.8	49	25	7.3	67.8						
13 健全な心と体づくり (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	⑬ 生徒の部活動への参加状況 部活動に一生懸命取り組んでいる。 部活動に一生懸命取り組んでいる。	A ↓ A	◇部活動の取組に関する評価については、教職員も生徒も保護者も、肯定割合が高く、充実した活動ができていることが確認できた。全ての項目で、肯定割合が高かったため、今後も、各部で良い刺激を与え合いながら、校内でも切磋琢磨していきたい。 ◆部活動の地域移行のことを考えると、今後はいかにして地域と連携して部活動指導を行っていくかも視野に入れていく必要がある。健全な心と体づくりを進めていくために、今後も部活動の取組の質を高めていくことが求められる。	教職員	前期	50	50	0	0	100	97.1%	
				後期	75	25	0	0	100			
				生徒	前期	80.4	15.8	2.5	1.3	96.2		
				後期	78.8	12.6	3.3	5.3	91.4			
保護者	前期	70.5	28.6	0	1	99.1						
後期	72.9	22.9	1	3.1	95.8							
14 地域コミュニケーション科の充実 (取組指標) (90%、80%以上、70%以上、70%未満)	⑭ 地域コミュニケーション科の授業を通して、計画的にライフキャリア教育が実施できている。 地域コミュニケーション科の活動は楽しく充実している。 地域コミュニケーション科の授業に、子供たちは目標を持って取り組んでいる。	A ↓ A	◇教職員・生徒・保護者ともに、肯定的な意見が90%を上回っている。地域コミュニケーション科の活動を楽しく思っている生徒も多い。ただ、教職員と保護者に4と答えている割合は低い。 ◆生徒が目標を持って授業に取り組めるように授業を設定していく必要がある。生徒が地域とつながり、ふるさとのよさを感じられるような取組にするためにどのような活動をすべきかを検討することが重要だと感じる。	教職員	前期	41.2	58.8	0	0	100	94.0%	
				後期	31.6	68.4	0	0	100			
				生徒	前期	48.7	33.5	12.7	5.1	82.24		
				後期	62.3	34.4	2	1.3	96.7			
保護者	前期	25.7	67.6	6.7	0	93.3						
後期	26	65.6	7.3	1	91.6							
15 学校運営協議会の理解 (取組指標) (90%、80%以上、70%以上、70%未満)	⑮ 学校運営協議会の役割・目的を理解している。 学校運営協議会の役割・目的を理解している。	A ↓ A	◇教職員・保護者ともに学校運営協議会の役割や目的を理解している。しかし、保護者の4と答える割合は20%程度のため、4を増やしていくことが好ましい。 ◆学校運営協議会の認知度が高まっているため、よりよい学校にしていくために、学校運営協議会でどのように協議していくかが重要であると感ずる。	教職員	前期	40	60	0	0	100	94.9%	
				後期	40	60	0	0	100			
				保護者	前期	23.1	69.2	7.7	0	92.3		
				後期	20	67.4	11.6	1.1	87.4			
考察・改善	前期		後期									
	【学校運営協議会委員より】○改善に向けて ・ 中学生生活は様々な活動や人間関係等で子供から少年(大人)への成長が目に見える密度の濃い時期と言える。今後も地域学習や部活動等、生徒相互が士気を高め合って更なる躍進を期待する。 ・ 地域行事への参加は、小学校から中学校に変わった段階で少なくなる印象がある。小学校と比較して中学校は部活動等で忙しくなり、地域行事に参加しにくくなるが、学校と地域が連携して切れ目のない関わりをしていきたい。 ・ ゲームやスマホに関しては、家庭指導の問題が大きいとは思いますが、生徒本人への自覚を促す学習を繰り返していく必要があると考える。 ・ スマホやゲーム機について、生徒自身が「問題あり」と自覚しているにもかかわらず、改められていないことに中毒性を感じる。 ○ 地域コミュニケーション科の新設に伴い、生徒の学習の場が地域に広がり、体験的・探究的な学習活動が計画的に実施されている。生徒が苦手とするコミュニケーション能力の育成につなげ、生徒一人一人のライフキャリア形成に深く関わる学習活動をしていきたい。 ○ スマホ・ゲーム機等の使用については、家庭での基本的な生活習慣の確立において重要な課題である。適切な使用の仕方やルール作りを生徒指導の観点から学校と家庭が協力して指導していかなければならないと考える。			【学校運営協議会委員より】○改善に向けて ・ 今年度新設された「地域コミュニケーション科」の活動が、生徒や保護者に受け入れられ好評であることが伺える。学校外の人材や資源を教材として有効活用できるよう、教職員一丸となって頑張してほしい。また、マスコミが有効に機能しており、学校内の活動が地域に発信されていてよい。 ・ 生徒が「地域コミュニケーション科」の活動によって地域の人達と接することによって、生徒の今後の人間形成に大変役に立つと思う。 ・ ゲームやスマホの利用により、基本的な生活習慣が害されており、睡眠不足や集中力の低下、視力の低下など子供たちの健康面が心配である。自己指導力の育成が急務であり、基本的には家庭の問題であるが、危険性や依存性について、症例を繰り返し提示して自己コントロールの意識付けができるように学校でも働き掛けてほしい。 ○ 地域コミュニケーション科の活動は1年を通して、鬼北町内の組織や人材をはじめ、県内外の多くの方々の協力を得て、生徒にとって大変貴重な体験的・探究的な学習活動が計画的に実施された。初年度であったことで、試行錯誤しながらの教科運営だった部分もあったが、今年度の実施経験を土台として、よりよいカリキュラム作成をしていきたい。 ○ 現代社会において、スマホ・ゲーム機等の使用は避けずは通れないものとなってきているが、生徒の日常で、トラブルやいじめの原因になることもあった。また、長時間の利用が原因で、睡眠不足による体調不良や学力の低下につながる危険性を抱える生徒もいる。今後も、適切な使用の仕方やルール作りを生徒指導の観点から学校と家庭が協力して指導していかなければならないと考える。								

重点	評価指標	評価の観点	評価	後期 ◇反省・◆提言	対象	時期	4	3	2	1	肯定割合	平均
4 管理運営・働き方改革の一層の促進	16 危機管理能力の向上 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	⑯ “危機管理能力”の向上に向けて、小さな変化を見逃さず、その日のうちに対応を始めている。	A ↓ A	◇施設管理に関しては、毎月の安全点検等の予防対策は十分できている。しかし、外部からの侵入等に関しては、本校のセキュリティは低い。 ◇生徒の悩みや生徒間の人間関係について、学級担任・学年・生徒指導・スクールカウンセラーや関係諸機関と連携して対応している。 ◆生徒の健康・命を第一に考え、自校を取り巻く健康・安全上の課題やその対策について、教職員の危機管理意識のアンテナを常に高く上げておきたい。	教職員	前期	70	30	0	0	100	100.0%
					後期	57.1	42.9	0	0	100		
	17 教育公務員としての資質・能力の向上 (取組指標) (100%、95%以上、90%以上、90%以下)	⑰ 「不祥事防止チェックシート」のマーク項目の割合	A ↓ A	◇全教職員が非違行為の未然防止を徹底し、誠実で真摯に職務に従事し、不祥事根絶に向け日々心掛けている。 ◆今年度より、会計管理も定期的実施している。交通事故・違反の根絶に向けて、全教職員で声を掛け合い、生徒へのロールモデルになりたい。	教職員	前期	90.5	4.8	4.8	0	95.3	100.0%
					後期	95.5	4.5	0	0	100		
	18 働きがいのある職場づくりと働きやすい環境づくりや働き方改革の促進 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	⑱ 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超えないように意識改革に努めた。	A ↓ C	◇時間外勤務の月80時間を超えないような意識改革が教職員の中で進められなかったことには反省点が残る。 ◆結果として超過勤務時間が多くなったとしても、管理職・ベテラン教職員の超過勤務が80時間を超えないようにするための意識改革を更に進め、職場環境改善に向け、学校行事等についての内容検討を計画的に行い、PTAや学校運営協議会へ提案し、地域と学校で生徒の育成に当たりたい。	教職員	前期	40	45	15	0	85	95.4%
					後期	28.6	38.1	28.6	4.8	66.7		
	19 安全管理の徹底 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	⑲ 事故やけがにつながりそうな行為への即時指導	A ↓ A	◇前期に引き続き、校内外の安全指導に注力し、大きな事故や怪我はなかった、自転車の転倒が多い地点については、生徒指導主事が鬼北交番とも連携を図り、生徒へ具体的に注意喚起をした。 ◆校内外の安全について、今後も定期的に事前指導や安全教育を徹底していく。教職員間の連携に加え、鬼北交番・PTAや地域との連携を図り、地域の危険個所の把握をしていく。	教職員	前期	47.4	52.6	0	0	100	100.0%
					後期	70	30	0	0	100		
	20 危険個所の早期発見と早期対応 (取組指標) (100%、80%以上、60%以上、60%未満)	⑳ 安全点検や日常の目視による観察	A ↓ A	◇毎月20日を安全点検の日として、全教職員が管理担当場所の点検を行っている。修繕等の対応個所については、管理担当職員や管理職が対応するとともに、教育委員会と連携した上で業者への依頼を適宜行っている。 ◆新校舎での快適な生活に甘んじることなく、生徒が安全・安心な学校生活を送れるよう日々、日常の安全点検を丁寧に行っていく。	教職員	前期	55	45	0	0	100	100.0%
					後期	70	30	0	0	100		
21 情報の共有と管理の徹底 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	㉑ 個人情報に配慮した積極的な情報共有	A ↓ A	◇日々の生徒指導情報等は、各種日誌に記録し情報共有できている。 ◇個人情報に関する書類は常に鍵のかかる書庫で保管・管理している。 ◆今後も情報管理を徹底し、情報漏洩がないように留意するとともに、生徒指導に関する情報については、学年部や部活動など適切な組織で情報共有し、安全・安心な学校づくりに努めていく。 ◆個人情報をしっかりと管理しつつ、HPや各種通信を通して適切な情報公開に努めていく。	教職員	前期	75	25	0	0	100	100.0%	
				後期	81	19	0	0	100			
22 厳正な金銭処理 (取組指標) (100%、90%以上、80%以上、80%未満)	㉒ マニュアルを厳守した金銭処理	A ↓ A	◇物品の購入は、管理体制が整っており、マニュアルを厳守した金銭処理が適正に行われている。 ◇学期ごとに、すべての会計の監査を管理職が行い、適正に処理されていることを確認している。 ◆今後も金銭の処理に関する不正が起らないように、管理職を中心に、教職員への働き掛けを継続していく。	教職員	前期	75	25	0	0	100	100.0%	
				後期	76.2	23.8	0	0	100			
23 適正かつ効率的な事務処理 (取組指標) (100%、90%以上、80%以上、80%未満)	㉓ 期限を厳守した文書処理	A ↓ A	◇学校行事をはじめ、教職員個々人の担当している業務に追われ、提出期限間近になり慌てる様子も時折見られた。 ◆自分に厳しく、職務に更に責任を持ち、一人一人が先を見通した計画的な業務執行を心掛け、優先順位を決め、メリハリのある職務遂行を心掛ける。	教職員	前期	65	35	0	0	100	100.0%	
				後期	54.5	45.5	0	0	100			
24 組織的に取り組む校務分掌 (取組指標) (100%、90%以上、80%以上、80%未満)	㉔ 報告・連絡・相談の習慣化	A ↓ A	◇学級担任・学年主任・生徒指導主事の連携が遅れ、管理職を含んだ組織的な対応に課題が残った。 ◆繁忙期にこそ連携を強化し、課題を一人で抱えることなく、早めで丁寧な対応を目指したい。	教職員	前期	65	35	0	0	100	100.0%	
				後期	63.6	36.4	0	0	100			
25 信用失墜行為の根絶 (取組指標) (100%、90%以上、80%以上、80%未満)	㉕ 信頼される教職員集団を目指し、信用失墜行為の根絶に努めた。	A ↓ A	◇機を捉えたコンプライアンス研修を実施することで、教職員一人一人の綱紀の保持及び服務規律の徹底を図ることができた。 ◆引き続き、誠実でしなやかな教職員を目指したい。そして、想像力を持って、生徒の命と未来を守る教職員集団を目指したい。	教職員	前期	80	20	0	0	100	100.0%	
				後期	86.4	13.6	0	0	100			
考察・改善	前期			後期								
	【学校運営協議会委員より】○改善に向けて ・ 問題や課題が山積している中で、様々な工夫や活動を実践しており感謝している。 ・ よりよい職場環境をつくり、成果を上げてほしい。 ・ 働き方改革は道半ばであり、もう少し改革できるところがあるのではないかと思う。超過勤務の過労死ラインは、一般に1カ月当たり80時間と言われている。教職員の健康な体と心があってこそ、生徒に必要な指導ができる。各種業務の効率化を進め、働き方改革を一層推進してほしい。 ○ 生徒一人一人を大切に、一人一人が成長できる学校運営をしていきたい。そのために教職員同士が助け合い、支え合える関係を築き、報告・連絡・相談を通して働きやすい職場環境づくりに努めたい。 ○ すべての項目において、高い自己評価となっている。教職員全体が不正を許さず、教育公務員としての自覚を持って日々職務を遂行してコンプライアンスの遵守を徹底していきたい。			【学校運営協議会委員より】○改善に向けて ・ 時間外の超過勤務においては、教育の質を担保するために頑張っている結果だと思いが、時間を有効に活用する組織的な取組と意識改革が必要であると思う。また、学校行事や重点事項、対外対応等において、1つ1つの見直しを行いビルド&スクラップを進めてもらいたい。 ・ 業務の中で改善できる点はないかなど、働き方改革に資するような点検を施し働き甲斐のある職場構築をしてほしい。そうすることで教職員のQOL(生活の質)向上につながり、ひいては、今まで以上に生徒の指導に目を配っていけるようになるのではないかと思う。 ○ 火災、地震、不審者対応において年間3回の避難訓練を行うなど、危機管理や安全管理の徹底に努めた。また、確実な施錠による防犯を組織的に行うために、施錠確認票を作成して学校日誌とともに管理している。 ○ 依然として時間外超過勤務時間が多く、前期よりも悪化してしまった。早目の退勤を呼び掛けるだけではなく、組織的に業務に取り組める職場環境づくりを進め、教職員にとって良好なワーク・ライフバランスを実現していきたい。								